

令和4年 7月20日

太田市議会議長

太田クラブ 代表 白石さと子



会派行政視察報告書

- 1 期日 令和4年7月4日(月)から7月6日(水)までの3日間
- 2 視察地 青森県弘前市、青森県青森市、北海道函館市
- 3 視察事項 (1) 青森県弘前市 「弘前市役所」
- ① 景観づくりの取り組みについて
- (2) 青森県青森市 「ねぶたラッセランド」
- ① 観光資源 ねぶた祭りについてについて
- (3) 北海道函館市 「はこだてみらい館・はこだてキッズプラザ」
- ① はこだてみらい館・はこだてキッズプラザについて
- 4 参加者 12名
- 白石さと子 山田隆史 町田正行 木村康夫 正田恭子
- 斎藤光男 渡辺謙一郎 大川敬道 中村和正 木村浩明
- 八長孝之 神谷大輔
- 5 視察概要 別紙のとおり

受 付	議会総務課
	令和4年7月20日
	第 260号

## 景観づくりの取り組みについて

### (1) 青森県弘前市 弘前市役所 視察概要

#### ○弘前市の概要

- ・面積 524.20K m<sup>2</sup> (令和3年4月1日現在)
- ・人口 164,848人 (令和4年5月1日現在)
- ・世帯数 71,085世帯 (令和4年5月1日現在)
- ・市制施行 平成18年2月27日
- ・一般会計予算額 令和3年度：764億8,000万円  
令和4年度：788億2,000万円
- ・議員定数 28人
- ・政務活動費 (議員一人当たりの月額) 50,000円

#### ○視察事項

##### ① 景観づくりの取り組みについて

###### ・目的

弘前市は、岩木山に代表される豊かな自然に囲まれ、弘前公園をはじめ、藩政時代のたたずまいを残す寺院街や伝統的建造物、そして明治・大正期に建築された洋風建築などの歴史的な文化財が数多く残されており、歴史と文化が息づく情緒豊かな街であり、これらの豊かな自然環境や歴史・文化資産を継承していくとともに、よりよい景観を創り出し、後世へとつなげていくことが、市民の責務と考えている。

###### ・取り組み

弘前市では、平成元年の「都市景観形成モデル都市」の指定を契機に、平成6年には県内初の「都市景観条例」(自主条例)を制定するなど独自の景観づくりの取り組みを進めてきた。そして、平成16年には景観に関する総合的な法律である景観法が施行され、法的な強制力をもった景観づくりを図るための制度が創設されたことから、実効性をもって、魅力ある景観づくりをより総合的・計画的に進めていくため、景観法に基づく「景観計画」を制定するとともに、「景観条例」(都市景観条例の改正)を制定した。

現在の主要事業としては、弘前城の石垣修理である。弘前城の総面積は49.2万m<sup>2</sup>を有しているが、現在は石垣の修理のため、天守を予算26億円、3か月かけて70m移動し、石垣に一つ一つ番号を振りながら同じ場所へ戻していく作業が行われている。

また、使用されなくなった歴史的建造物の弘前れんが倉庫を民間の力を借りて再生する他、2018年に寄贈された旧第五十九銀行本館を2年間かけて修復し、観光資源として市民活動の拠点として活用をする等、歴史的建築物の新たな活用や保善も随時行っている。

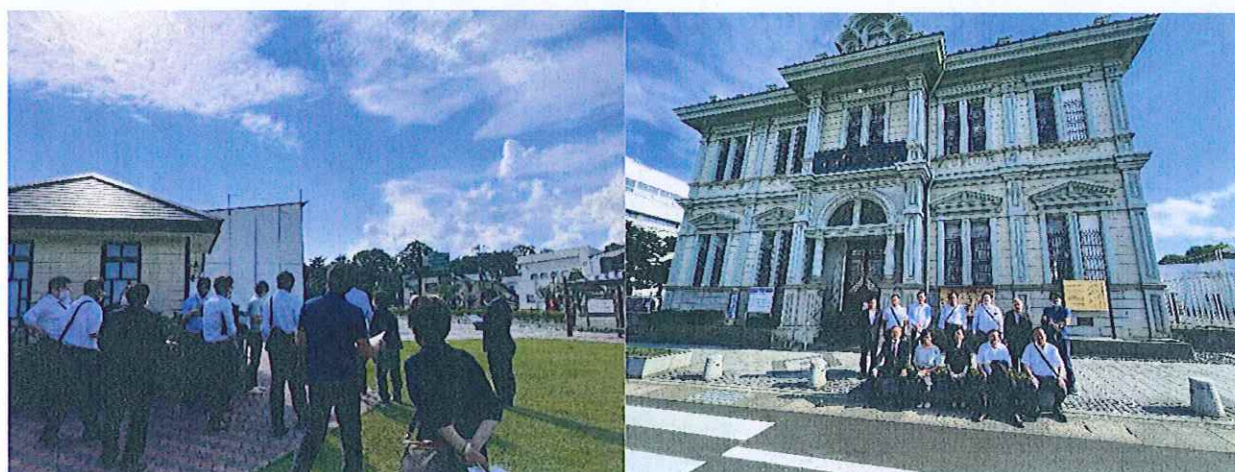
この様な貴重な建築物等の景観を守るために必要な事が景観づくりであり、上記条例を制定し建物や看板の高さ等についても条例にて規制をかける等、後世へ残せる取り組みを行っている。



・所感

弘前市を訪問させて頂き市役所まで移動をする中で、まず感じた事は市内各所にある歴史的建造物が自然と目に入ってくる事であった。弘前市からの説明の中で分かった事ではあるが、建物の規制だけではなく、店舗の看板は普通、目立つ位置に設置されているが、建築物同様に条例により高さや設置場所にも規制があるため、歴史的建造物が見えやすくなっているという事である。この事により、歴史的建造物を生かした景観づくりが行えていると感じた。

弘前市は弘前城を始め、ねぶた祭り等、年間を通して観光客が多く訪れる場所であり、弘前市が目標とする「自然に惹かれ、歴史と未来が繋がるまち弘前 ～ 住まう人が愛着と誇りを感じ、訪れる人の心に刻まれる景観づくり」にある様に観光客にとっては目的地を見るだけではなく、景観が奇麗であればあるほど、また、訪れたいと感じ、多くの観光客が訪れれば市民もより景観を大切にする。それだけではなく、ねぶた祭りや津軽三味線等の伝統を守っていく事により「もっと多くの方々に訪れてほしい」そんな愛着を持った好循環なまちづくりが行われている印象を受けた。





## 観光資源 ねぶた祭りについて

### (2) 青森県青森市 「ねぶたラッセランド」視察概要

#### ○青森市の概要

- ・面積 824.61K m<sup>2</sup> (平成 29 年 10 月 1 日現在)
- ・人口 272, 752 人 (令和 1 年 6 月 1 日現在)
- ・世帯数 961,727 世帯 (令和 1 年 6 月 1 日現在)
- ・市制施行 平成 17 年 4 月 1 日
- ・一般会計予算額 令和 3 年度：1, 226 億 3, 300 万円  
令和 4 年度：1, 238 億 1, 100 万円
- ・議員定数 35 人
- ・政務活動費 (議員一人当たりの月額) 90,000 円

#### ○視察事項

##### ① 観光資源 ねぶた祭についての概要

###### ・目的

###### (1) 新幹線開業を契機とした中心市街地の活性化

駅と港とまちが隣接しているという青森市の特性を生かし、八甲田丸や観光物産館アスパムなど既存施設との連携したウォーターフロント地区の新たな魅力づくり

###### (2) 青森市が世界に誇る「ねぶた祭」保存・伝承の拠点

ねぶたを核として、市民や観光客、ねぶた関係者が集い、様々な交流を行う事による本市の文化・観光の振興発展と経済の活性化

###### ・取り組み

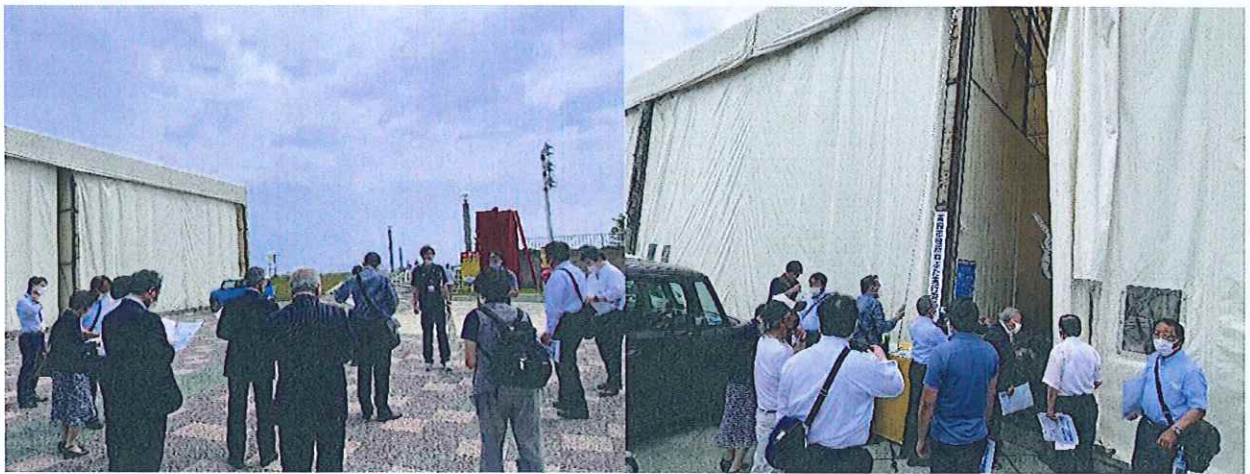
ねぶた祭りは約 280 万人が訪れる大きな観光資源の一つとして、また、文化の継承、地域や経済の活性化として市をあげて計画、実施している。青森市文化観光交流施設の「ねぶたの家 ワ・ラッセ」では昨年、前年に優勝したねぶたが飾られ、一年を通して見る事ができる様になっている。現在は新型コロナの影響により 2 年連続でねぶた祭りは中止となってしまったが、本年は 3 年ぶりのねぶた祭りを開催予定し、現在「ねぶたラッセランド」ではねぶたを作成している様子から見る事が出来る場所として、市民の他、観光にも開放している。特に、観光客にはボランティアがねぶた祭りの案内ガイドとして在中している。

また、本年はねぶた祭りを多くの方々に知って頂く取り組みとして、三沢市や東京都中野区、東京ドーム内等への派遣事業を計画している他、弘前市のねぶた祭りが 300 年という節目を迎えるにあたり、弘前市と合同で連帯を予定している。



## ○所感

毎年、6日間のねぶた祭で280万人が日本のみならず、多くの海外の方々が訪れ盛大に開催されるねぶた祭。計画、準備の段階から大きな予算が組まれ、実施されている事が分かったが、視察を通して実際にねぶたを制作している風景やねぶたまつりにかける市民の方々の想いに触れる事で成功するためには行政の力だけではなく、市民の力や想い、協力が必要であると感じた。前日の弘前市でもそうだが、市民の方々が歴史や文化を誇りに思い、その継承のために自主的に取り組んでいる様子が見られた。たとえ、行政が良い施策を計画しても市民の方々の理解と協力を得られなければより良い成果にする事は出来ない。本市は残念ながら他市に誇れる観光資源の活用が進められていないと感じる中、市民が誇りに感じ、市民を巻き込んだ、自主的に活動ができる様な観光資源の活用方法を調査、研究していきたい。





## はこだてみらい館・はこだてキッズプラザについて

### (3) 函館市 「はこだてみらい館・函館キッズプラザ」視察概要

#### ○函館市の概要

- ・面積 677.87K m<sup>2</sup> (令和2年7月1日現在)
- ・人口 365,979人(平成27年 国税調査)
- ・世帯数 123,950世帯(平成27年 国税調査)
- ・市制施行 大正11年8月1日
- ・一般会計予算額 令和2年度:2,655億円3,500万円  
平成31年度:2,712億円3,100万円
- ・議員定数 27人
- ・政務活動費(議員一人当たりの月額)45,000円

#### ○視察事項

##### ① 「はこだてみらい館・はこだてキッズプラザ」の概要

###### ・目的

###### 「はこだてみらい館」

市民および観光客に対して先端的な技術を活用する事、その他の創意工夫を生かした体験及び交流の場を提供する事により、中心市街地のにぎわいの創出を図る事を目的としている。

###### 「はこだてキッズプラザ」

子どもおよびその保護者に対して、遊びを通じて交流する場、及び子育てを支援する場を提供する事により、中心市街地のにぎわいの創出を図る事を目的としている。

###### ・取り組み

平成23年4月に当選した現市長の政策の一つである「駅前市有地での民間商業施設と子どもおもしろ館、キッズセンターなど公共施設複合築による集客施設の建設」に基づき、施設整備の検討を開始。その後、「函館市中心市街地活性化基本計画」において、低利用化・老朽化が著しい和光ビルを含む街区を一体的に再開発し、商業施設、集合住宅、子育て世代活動支援施設等を整備する事により、街区の機能更新、高度利用に併せ、中心市街地全体への波及効果を生み出すと共に、多くの利用者が見込まれる子育て世代活動支援施設や、街なか居住に寄与する集合住宅を整備するため、「函館駅前若松地区第一種市街地再開発事業」を行う事となり、中心市街地の活性化をより効果的に推進するため、当該事業で建設する再開発ビル内に当該公共施設整備する事とし、平成28年10月15日に「はこだてみらい館」及び「はこだてキッズプラザ」を開設した。

開館から駅前通りの人通りと比例するように利用者数の増減が見られていたが、令和2年からは新型コロナの影響により利用者数が激減。利用者は市内、道内の利用者が殆どで、東北地方の利用者(修学旅行者)が27%と施設の周知不足による利用者数の伸び悩みが課題となっている。



・所感

はこだてみらい館・はこだてキッズプラザを共に視察させて頂いたが、共に施設に対しての考えが感じられる作りや設備であり、来館された子供から大人、観光客等まで一日中楽しめる施設であると感じた。

「はこだてみらい館」では主に映像を用いて楽しめる施設で、巨大スクリーンを活用した函館市内の名所の紹介、各種コンテンツが時間によって上映される等のメディアウォールの他、360studio では 360°の映像と音楽で各名所を散策しているかのような体験空間、その他、プロジェクションマッピングやワークショップ等もあり、子供・大人だけではなく観光客も楽しめる施設であった。

「はこだてキッズプラザ」では太田市にある B の国に少し似ている場所であるが、中には保育士が子供を最大 3 時間まで預かれる場所や子育て世代の相談窓口等もあり、子供を育てている親にとっても助かる施設であると感じた。

子育てとは視点が異なるが、本市においてもスポーツを通じた交流人口の増加を目指している中で、メディアウォール等の技術を活用する事により、本市を訪れた多くの観光客が市内の様々な場所を訪れるきっかけになるのではないかと考える。実際に、メディアウォールを見た後に、紹介された函館市内の各所を訪れてみたいと感じた。目的は共に中心市街地の活性化ではあるが、同事業を活用する事により市全体の活性化を図る事が出来るのではないかと考えるため、今後も調査、研究していきたい。

